

## 住友金属工業株式会社 2010 年度第 3 四半期決算説明会

## (2011 年 2 月 4 日開催) 質疑応答の概要

説明会出席者 専務執行役員 瀧井 道治  
経理部長 加藤 聖二  
広報・IR部長 増田 信昭  
IRグループ長 星 正人

---

**(業績実績、業績見通しに関して)**

- Q 1) 第 3 四半期実績と第 4 四半期見通しの営業利益増減の要因分析の中で、販売数量増により 30 億円好転ということであるが、30 万トンの販売数量増に対して 30 億円の改善は、限界利益を考えると少ないように見えるが？
- A 1) 今回は、高炉不調による業績への影響を通常の増減分析とは別に開示しております関係です。具体的に申し上げますと、第 3 四半期から第 4 四半期にかけての販売数量増加の主因は高炉不調からの回復が大きいので、資料では、「高炉回復による好転:130 億円」の内数に含まれるように表記しております。「販売数量増による好転:30 億円」というのは、高炉以外の要因による販売数量の増加分を示しております。

**(2010 年度通期業績見通しに関して)**

- Q 2) 09 年度と 10 年度見通しの営業利益増減の要因分析を見ると、原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁しきれていないようだがこの要因は？
- A 2) 原材料価格上昇分の販売価格への反映に時間を要したのが、最大要因です。本年度は、原材料価格の交渉スキームが、四半期毎の改定に変更されましたが、上期は、お客様にご理解をいただくまでに随分時間を要しました。下期にかけて一般鋼材でスプレッドが大きく変化したわけではありません。
- Q 3) 営業利益から高炉不調要因やその他の一過性要因を除いた金額を実質ベースの営業利益と考えると、実質ベースの営業利益が第 3 四半期実績から第 4 四半期見通しにかけて減少するように見えるが、これは原材料価格の販売価格への転嫁遅れが原因か？
- A 3) 豪州の水害影響による原料炭コストの上昇要因が大きいと考えています。また高炉不調のお客様納期への影響を最小限にするべく、第 3 四半期は通常のレベルを大きく上回る在庫圧縮対応をしましたが、これは非常時対応ですので、今第 4 四半期は圧縮した在庫レベルを回復せざるを得ず、このような状況も営業利益の増減には影響しています。
- Q 4) カンパニー別の収益変動について解説を？
- A 4) 鋼板・建材事業は鹿島製鉄所の高炉不調影響とその回復による変動が主体です。スラブ事業は、第 3 四半期は和歌山から鹿島へのスラブ製鉄所間転送による、操業度上昇のプラスがあったのに対し、第 4 四半期の業績が落ち込んでいるのは、この一過性要因が無くなることと、第 3 四半期の熱延市況下落が時期ズレをもって影響しているためです。特殊鋼については、自動車のノックダウン生産が好調なため、現在は上工程もほとんどフル生産となっております。

Q 5) 下期販売価格について？

A 5) 第 4 四半期のひも付き販売価格につきましては、まだお客様と交渉中の部分も残っています。当社の特徴であるシームレスパイプについては、原材料コストの上昇に従って販売価格を改訂してきた効果が一般鋼材より遅れて現れてきていると考えています。

#### (シームレスパイプに関して)

Q 6) パイプの販売価格は、前回決算時の想定よりも上振れているのか？

A 6) 急速に販売価格が上がっている訳ではありません。長期契約ユーザーにつきましては、原材料価格の上昇見合いの販売価格改訂をご理解いただいております。

Q 7) シームレスパイプの 2011 年度の販売数量は、今年度見通しからどの程度回復すると見ているか？ 販売価格についてはどうか？

A 7) 販売数量見通しにつきましては、現在予算編成中で、確たることを申し上げられる段階にはありませんが、全体的には緩やかな回復傾向が続くと考えております。市況につきましては、原材料価格が大きく影響しそうです。

Q 8) ボイラチューブの状況は？

A 8) 原子力向けについてはフル生産が継続しています。超々臨界圧石炭火力発電用ボイラチューブは、現在は低迷状況を脱しておりませんが、来年度以降の回復を期待しています。

Q 9) 最近では、シェールオイルの開発が活発になってきていると聞かすが、住金のシームレスパイプ販売構成にも影響を与えている状況か？

A 9) シェールオイル、タイトオイルの開発は現在は米国が中心ですが、当社はもともと、米国向けの販売比率は小さいため、当社の販売構成には大きな影響は生じておりません。

#### (2011 年度の見通しについて)

Q 10) ブラジルの VSB が立ち上がるが、これは持分法損益への影響となるのか？ 今後の立ち上げスケジュールは？

A 10) VSB は製造子会社のため、持分法損益ではなく当社の営業損益への影響が大きくなります。昨年 12 月に初製管をしましたが、11 年下期には製鋼も含めた、一貫生産を見込んでいます。2011 年度下期にはユーザーや API 規格認定も完了し、2012 年にはフルに生産能力を発揮できる見込みです。

Q 11) 2011 年度設備投資の見通しは？

A 11) 来年度は、和歌山製鉄所の第 2 高炉や SG 管増産、総合技術研究所のリニューアル等の設備投資が予定されています。設備投資額は 2010 年度がピークで、来年度は、1000 億円レベルと見えています。

Q 12) 鹿島製鉄所の高炉不調や SUMCO の業績下方修正といった一過性の要因は、2011 年度には影響しないと思っておりますか？

A 12) いずれも今年度限りの要因です。